

# 小学校 第3学年 音楽科学習指導案

日時 平成28年11月2日(水) 公開授業Ⅲ

学級 小学校 3年

男子1名 女子3名 計4名

場所 音楽室

指導者 佐藤 由紀

## 1 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう

教材「山のポルカ」「あの雲のように」「ふじ山」

## 2 題材設定について

本題材は、学習指導要領第3学年及び第4学年のA表現(1)歌唱ア、イ、ウ、エ(2)器楽ア、イ、ウ、エの力をつけるために適した題材である。特に「曲想にふさわしい表現を工夫し思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること」「互いの歌声や副次的な旋律を聴いて、合わせて歌ったり演奏したりすること」について、共通事項の「旋律」との関連を図りながら、重点化して指導していくものである。

児童はこれまでに、曲調を感じ取りながら身体表現をしたり、拍の流れやリズムに乗って歌ったり演奏したりするなど、意欲的に音楽活動に取り組んできた。ピアノを習っている児童が4名中2名おり、普段から活動の中心的な存在である。「海風きって」では、弾んだリズムで楽しげなアの旋律とのびやかなイの旋律の曲想の違いを感じ取り、二つを重ね合わせる楽しさを学んだ。新たに取り組んだソプラノリコーダーの学習では、新しい音を覚えて吹く事や曲を完成させることに大変意欲的であった。しかし、曲想や歌詞の内容にふさわしい表現を、自分たちで考えたり工夫したりするところまでには至っていない。

そこで本題材では、音楽を特徴付けている要素の一つである「旋律」に着目し、その動きの特徴を楽譜から見つけたり、その特徴によって生み出される曲想を捉えたりしながら、自分の思いや意図を持って表現する学習を進めていく。それにより、元気で明るい音楽表現だけではなく、それぞれの曲にふさわしい表現があることに気付かせ、表情豊かな音楽を目指したい。また、その際に必要となる技術面は児童の試行錯誤の中で気付いていけるよう指導を工夫したい。

## 3 題材の目標と評価基準

◎旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

### 【関心・意欲・態度】

・歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。

### 【音楽表現の創意工夫】

・旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って表現の仕方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の思いや意図をもっている。

### 【表現の技能】

・旋律の特徴、歌詞の内容などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌ったり演奏したりしている。

## 4 題材の指導計画(7時間扱い 本時7/7)

次	時	学 習 活 動
一 次	1	・「山のポルカ」の2つの旋律の特徴の違いを感じ取り、アの旋律を演奏する。
	2	・「ファ」「ミ」の運指を覚え、イの旋律の特徴に合う演奏をする。
	3	・ア、イそれぞれの旋律の特徴を生かし曲のまとまりを感じながら全体を通して演奏する。
二 次	4	・旋律の音の上がり下がりを感じ取り、曲想に合った声で歌えるように歌い方を工夫する。
	5	・副次的な旋律をリコーダーで奏で、二つのパートを合わせて演奏を楽しむ。
三 次 本時	6	・歌詞の表す情景を思い浮かべながら、のびのびとした声で歌う。
	7	・旋律の音の上がり下がりに気を付けて曲の山を感じ取り、曲の山や歌詞の内容を生かした表現を工夫する。

5 本時の目標

日本一高く美しい「ふじ山」を表現するために、曲の山を生かした歌い方を工夫し、思いや意図をもって歌うことが出来る。

6 本時の指導の構想

(1) 「見通しと振り返り」の位置づけ

見通し 「曲の山」を生かした歌い方を工夫するという見通しを持たせる。

振り返り 学び合いから考えた、表現の工夫や思いを自己評価カードに記入する。

(2) 指導構想及び留意点

日本一高く美しい「ふじ山」を表現するためにはどう歌えば良いのかを、歌詞の内容や大事な言葉、曲の山をつかんでから、実際に試行錯誤しながら考えていく活動を授業の中心としたい。

歌詞については、「日本一高く大きい山」という捉えだけではなく、「美しい山」にも注意させることで、声の出し方につなげたい。また、曲名となっている山の名前「ふじ」が、ちょうど曲の山に重なることに気付かせたい。曲の山を見つけるためには、範唱を聴いたり口ずさませたりしながら気持ちが盛り上がる部分を感じ取らせる他に、旋律に注目させ、音の上がり下がりについて拡大楽譜や指なぞりで確認し、旋律線の動きと山の形を重ね合わせることで視覚的にも捉えやすくしたい。

歌い方を工夫する場面では、個々の考えを共有しながら、曲の山を盛り上げるために強くすることや、山の頂点までの前後のつながりに気を付けることを生かしてまとめの歌へとつなげたい。

(3) 評価規準

本時の評価規準	支援の手立て
曲の山や歌詞の内容を生かした表現の仕方を工夫し、思いや意図をもって歌っている。	曲の山について、旋律線からつかませ、そこを盛り上げるように歌うにはどうすれば良さそうかを、友達の考えを聞きながら気付かせる。

7 本時の展開

段階	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 8分	1 既習曲「あの雲のように」を歌う。	○曲想に合う歌い方ができるよう声かけをしながら、学習する雰囲気を作る。 ○日本で一番高く世界遺産にもなっている美しい山を表した歌であったことを想起させる。
	2 前時の学習を振り返り「ふじ山」を歌う。	
展開 30分	3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">課題 日本一高く美しい「ふじ山」を表すには、どう歌えばよいかを考えて歌おう。</div>	○「曲の山」を見つけて、それを生かして歌うことを伝える。 ○教科書から、気持ちが一番盛り上がる場所が「曲の山」であるということをつかませる。 ○気持ちが盛り上がる部分の歌詞(縦書き)を○で囲ませる。(数箇所あっても良い) ○拡大楽譜から、旋律も山のようになっていること、音が他より高いことを視覚化させる。 ○歌詞(大事な言葉)から、最も大きな「曲の山」が4段目の頭「ふじは」に当たることをつかませたい。
	4 課題解決の「見通し」をもつ。 5 曲の山がどこにあるかを探す。 ①範唱に合わせて口ずさみながら、気持ちが盛り上がる部分を感じる。 ②その部分の旋律が山のように上行下行していることに気付く。 ③ちょうど山の頂点の部分に「ふじ」という大事な言葉がきていることを見つける。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導 入</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・「曲の山」は4段目の頭で、3段目からの旋律の音も山のようにだんだん上がり、その後下がっています。</p> </div> <p>6 「曲の山」を生かした歌い方をそれぞれで考える。</p> <p>7 個々の工夫を発表させ、共有し工夫しながら歌う。</p> <p>①「曲の山」を盛り上げるよう強く歌う。 ②単にそこだけを急に強くするのではなく、音楽の流れの中で自然に強弱（&lt;や&gt;）が付くように歌う。</p>	<p>○それぞれが感じ取った曲の山も受け入れる。</p> <p>○ワークシートに記入しながら考えさせる。 ☆【音楽表現の創意工夫】 ワークシートに、「曲の山」を生かした自分なりの工夫や思いを書いている。</p> <p>○全員の工夫を拡大楽譜に残す。</p> <p>○盛り上げようとするあまり乱暴にならないように、「美しさ」も意識出来るよう問いかけながら練習させる。</p> <p>○拡大楽譜をつなげて音楽の流れを考えさせる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終 末 7 分</p>	<p>8 学習の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本一高い「ふじ山」を表すために、曲の山がだんだん強くなるように山型の旋律をイメージして歌いました。美しさを表すために、乱暴にならないように丁寧に歌いました。</p> </div> <p>9 まとめの斉唱をする。</p>	<p>○日本一高く美しい「ふじ山」を表すためにみんな考えた事や工夫したことを、学習カードに記入し発表させる。</p> <p>○工夫が活かされやすいよう、ピアノ伴奏でも歌をリードする。 ☆【音楽表現の創意工夫】 どう歌うかについて思いや意図を持って歌っている。</p>

## 8 板書計画

〈上の黒板〉

**課題** 日本一高く美しい「ふじ山」を表すには、どう歌えば良いか考えて歌おう。

**富士山の写真**

〈下の黒板〉

《拡大楽譜》

1 段目

3 段目

縦書きの歌詞

2 段目

4 段目

**まとめ** 曲の山がだんだん強くなるように山型の旋律をイメージして丁寧に歌う。